

黒羽芭蕉の館だより ⑧

企画展

「句碑拓本で味わう芭蕉の名句」

当館では平成3年度以来、黒羽地域にゆかりあるテーマにより、毎年1回企画展を開催し、図録を制作しています。

また当館では、資料館としての性格上、松尾芭蕉および黒羽地域に関する資料・作品を収集しており、その一環で平成16年度には、個人の方より多数の芭蕉句碑拓本掛幅の寄贈を受けました。これらについては、当館芭蕉展示室などにて一部展示したことはありますが、まとめて全体的に紹介する機会はありませんでした。そこで本年度は、前記資料を中心とした県内各所に所在する芭蕉句碑などの拓本掛幅(約40幅)や、それら句碑の写真などを展示して、身近な地域の句碑を手がかりに俳聖芭蕉の名句を鑑賞し、理解を深めていただくことを目的とした企画展を次のように開催いたします。



「木つゝきもいはやぶらず夏こだち 芭蕉翁」

テーマ

「句碑拓本で味わう芭蕉の名句」

会期

11月2日(水)～12月11日(日)

会場

黒羽芭蕉の館 展示室

展示構成

- ①『おくのほそ道』の概要
- ②下野の『おくのほそ道』の句を味わう
- ③40代以降の芭蕉の名句を味わう

関連事業

参加費無料。

「ギャラリートーク(展示解説会)」

日時 11月3日(木・祝)

午後1時30分～2時30分

場所 当館展示室

担当 当館学芸員

※事前の申し込みは不要ですが、観覧料がかかります。

【講演会】

日時 11月19日(土)

午後1時30分～3時

場所 当館研修室

講師 蓮實淳夫氏(「おくのほそ道」の旅の会講師)

演題 『おくのほそ道』の山

定員 40名(定員になり次第締切り)

※申込方法 当館窓口へ直接または

電話・FAXにより申し込み。

「展示替えに伴う臨時休館」

臨時休館日 11月1日(火)

問い合わせ

黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151

FAX (54) 4188

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 ⑱

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介します。

この作品は、ふれあいの丘の芝生広場の西側、宿泊施設に続く坂道の中腹にある彫刻です。

一見すると荒削りの石柱のようにも見えます。近づいてみると、高さが3m近くあり結構大きいことが分かります。また、きれいに磨かれた石の面は、実は平らではなく、滑らかな起伏があります。「石がやわらかい曲線を持って天に向かって昇る姿を見るには最低この高さ



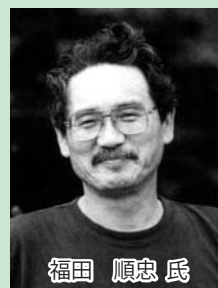
Stone Works 一天までとどけー

ふくだ よしただ
福田 順忠
1998年

は必要」といって、作者はこの作品を作り上げました。富士山を見るように仰ぎ見てくれることを期待しています。

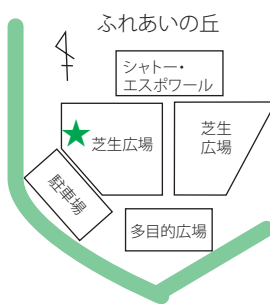
ドイツの画家アンゼルム・キーファーの作品展で、壁いっぱい大きな作品に出会った作者は、近くで仰いで見て、平面なのに「より大きく、我々にかぶさる」という感覚に襲われ、作品の持つ意味が明確になったといいます。このときの感覚がこの作品を生み出したのでしょうか。

作者は、1944年栃木県生まれの福田順忠氏。愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了後、オーストリアのリンダグラム国際彫刻シンポジウムに参加。現在は那須塩原市内にアトリエを持ち、那須野が原ハーモニーホール「原野展」にも毎年出品されています。



福田 順忠氏

設置場所案内図(★印)



問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718